

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学

令和元事業年度の業務実績に関する

項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和2年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①全学横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講2年目を迎え、芸術系、人文系各学科から269名が受講し、最初の修了者として30名が所定の成果を収めたこと。
- ②企業等と連携し、デザインの専門性を活かした取組を展開しているが、クリエイティブ産業創出に向けた経済団体との連携等、さらなる取組の強化が期待されること。
- ③就職・進学に対応した進路指導プログラムと進路指導室の面接・相談等により、就職率98.0%、進学率97.9%といずれも高い水準を維持したこと。
- ④県振興局と連携した地方創生の取組を他の振興局にも広げていくことが期待されること。
- ⑤地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めているが、新設の図書館、音楽ホール棟を地域活性化につなげる一層の工夫が期待されること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○教育の内容及び到達目標

- ・芸術系と人文系の学部を併設する特色を活かした全学横断型「アートマネジメントプログラム」は2年目を迎え、4つの講座に全学科の延べ269名が受講した。美術館・劇場見学など（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団と連携したほか、学生が企画運営するイベントを実施するなど内容を充実させた。
- ・学科ごとに「期待される学修効果」の点検及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの検証を行い、情報コミュニケーション学科の卒業研究においてルーブリック評価を本格実施した。
- ・美術科では、美術専攻分野の再編等について検討を行った。
- ・音楽科で、基礎教育科目（ソルフェージュ・音楽理論・和声学）において習熟度別クラス編成の効果を確認した。
- ・国際総合学科でタブレットを用いた授業支援システムを導入し、外国語科目等に活用した。
- ・情報コミュニケーション学科で、模擬面接を2年生全員に実施するなど、時代のニーズに対応したキャリア教育を充実させた。

○教育の実施体制

- ・カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラム編成となっているかについて、学科ごとにカリキュラムマップ（科目と到達目標の関連性を示したもの）を活用し、カリキュラムの点検・評価を行った。また、FD・SD推進室で集約し、情報共有を図った。
- ・美術科で、各企業等（(株)クロレラ本社、県雇用労働政策課など）と連携し、デザインの専門性を活かした取組を展開した。

○地域社会への貢献

- ・生涯学習ニーズの高まりに対応し、継続的かつ専門的な公開講座であるオープンカレッジ49講座に2,438名、公開授業17科目に69名の一般県民が受講した。
- ・県内で開催されたラグビーワールドカップ2019大分大会において、県議会議場コンサートにて出場国にちなんだ楽曲を演奏、大分駅前に巨大モザイクアートを展示するなど積極的に参画し、大会成功に向けた機運の醸成に寄与した。
- ・長湯温泉や柞原八幡宮など各種団体等と協働し、デザインなど専門領域の教育研究成果を地域に還元し、地域課題の解決や地域活性化に努めた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教育	12			3	9
研究	6			1	5
社会貢献	6			1	5
その他の目標	1			1	
合計	25			6	19

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 教育研究に関しては、大変よくやっている。「アートマネジメントプログラム」など特色あるカリキュラム編成は魅力。芸術文化ゾーン等と連携した実践的教育を更に充実させて地域の発展に貢献していただきたい。
- 本学の特色を生かした「アートマネジメントプログラム」は、修了生の進路に生かすことができ、受講生の増加により新入生の関心が高まるという良い結果が得られており、大いに評価できる。

- 18歳人口の減少により、多くの大学が志願者減を課題としている中、教育の充実及び地域社会の貢献により、オープンキャンパスの参加増や志願者増に繋がっているということは客観的な社会的評価として着目すべき点である。
- 現在、全国的な国公立大学の3P（ポリシー）（アドミッション、カリキュラム、ディプロマポリシー）刷新が急務とされる中、教育を保証するディプロマポリシー、カリキュラムマップを活用したカリキュラムポリシーの点検・評価、期待される学修効果の点検、さらに情報コミュニケーション学科においてルーブリック評価が進んでいること、さらに貴学ならではの全学横断型の「アートマネジメントプログラム」が展開する中、最初の修了生30名を成果つけたこと、美術科・音楽科の組織編成が進んでいること、就職率、進学率も希望者に対し極めて高水準を維持し中期目標を達成していること、さらに数多くのオープンカレッジ公開講座、公開授業、デザインの専門性を生かした県内各地域との連携・協働、ラグビーW杯大分大会におけるコンサート演奏やモザイクアート等を通じたアートサポート等、ユニークな地域社会への貢献が取り組まれていること、等が堅実な努力により展開しており評価しうる。一方、幅広い活動が目指されている中、とりわけ全学横断型の「アートマネジメントプログラム」がもたらした効果発現をわかりやすく検証する必要があると求められる。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

(2) 判断理由

- ①教育力向上経費を活用して受講した外部研修の成果を全教職員で共有するなど、全学的な F D (Faculty Development : 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的取組)・ S D (Staff Development : 職員が必要な知識および技能を向上させるための組織的取組) 活動を推進したこと。
- ②業務の選択と集中の観点から、大学の魅力アップ、社会貢献、人事の効率的運用、施設整備の 4 項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 運営体制
- ・理事長（学長）をはじめとする幹部会議を定期的開催し、迅速な意思決定を行った。また、キャンパス整備に当たり、学長を委員長とする安全管理調整会議を定期的開催し、学内の安全確保等について意思決定と情報共有を行った。
- 人事の適正化
- ・特任教員の任期満了に合わせ、令和 3 年 4 月の教員採用に向け、学生ニーズや採用教員の担当科目について検討を深め、公募準備を進めた。
- 業務の選択と集中
- ・業務の選択と集中の観点から、①大学の魅力アップ、②社会貢献、③人事の効率的運用、④施設整備の 4 項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			2	1
事業の選択と集中	1				1
合計	7			5	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 実績報告に関して、P D C AではなくP Dに留まり、なおかつPがあまり具体的（例えば、計数やプロセス評価）に記述されていない。これでは非専門の外部評価者としては評価の軸がなかなか持ちえないのではないか。実施状況は、できたことも大事だが、むしろできなかったことや、課題として残ったことが大切。それがC Aにつながり、次期以降の施策につながるのではないか。
- 理事長（学長）をはじめとする幹部会議による大学運営が大事業としてのキャンパス整備を実現させており完成が待たれる。貴学のビジョンやミッションには、デザインやアート、音楽を通して地域社会への貢献が期待されているが、そのために必要な大学運営のための会議や委員会活動といった運営体制の活性化や、人事の適正化、効率的運用へ向けた教職員の人材育成と計画的な教育採用への努力が進められている。そこから重点的な業務運営として、大学の魅力アップ、社会貢献、人事の効率的運用、施設整備の4つの事業が遂行されており、それらの成果と相乗効果が期待される。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

(2) 判断理由

- ① キャンパス整備に合わせた省エネ効果の高い機器の導入により、電力消費の抑制に努めたこと。
- ② 公開講座の拡充や音楽ホール棟貸し出し、事前研究支援等に努めているが、地域活性化の取組や産学官連携による研究事業受託等の強化を通じて、さらなる収入確保を図っていくことが期待されること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 事務等の効率化及び経費の抑制
 - ・ 教職員に対し経費削減を意識付け、夏季の軽装運動と冬季のウォームビズを呼びかけ、節電に努めた。また8月の一斉休校日の実施、キャンパス整備に合わせた省電力機器の導入により、電力消費の抑制に努めた。
- 自己収入及び外部資金の獲得
 - ・ 公開講座において、受講者ニーズに対応した11講座を新たに開講した。折り込みチラシやダイレクトメールを活用した広報に努め、参加者は150名増加した。
 - ・ 新設した音楽ホール棟について、外部貸出の方法や条件について学内で検討し、2年度からの貸し出しを決定した。
 - ・ 科学研究費等外部資金獲得に向けて、独自に研究費特別枠を設け事前研究を支援するとともに、事務的な手続について事務局が研究者を支援するなどの体制を整えた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
事務効率化 ・経費抑制	2			2	
自己収入・外部 研究資金の獲得	3			1	2
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合計	8			6	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 大学施設の貸出や受益者負担の適正な運用等により、小口かも知れないが、確実な収入の確保に努められたい。一方、コスト削減による財務の健全化にはまだ検討の余地があるのではないか。電力量の削減にあたっては、意識だけでは限界があるので、例えば、新電力の導入等を検討してはどうか。また、事務用品等の経費削減についても、例えば、民間で最近普及している「成功報酬型コスト削減コンサル」等の活用も検討してはどうか。
- 経費削減について、より具体的な例を示されたい。
- 貴学のキャンパス整備がもたらす大学コーポレートアイデンティティ（イメージ）の刷新化のみならず、新たな施設の省エネ効果や新設の音楽ホールの貸し出し利用や大学施設全体資産の貸し出し・有効活用化、マネジメントなど、経済上の効果が財務上からも期待される。さらに公開授業やオープンカレッジ公開講座における講習料は重要な自己収入として算入される一方で、経済的に困窮する学生が増えており授業料に対する個別の相談、指導等を適時加味する努力も必要であろう。学生や公開講座受講生に対する社会的包摂や合理的配慮を發揮されることで地域社会全体から支えられる公共性を意識した大学経営を意図されたい。同時に、積極的な外部資金獲得への挑戦や採択等へ向けての教職員が協力し合った取り組みは独自の成果をあげるものと高く評価しうる。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①大学基準協会による認証評価に備え、自己点検評価委員会において自己点検・評価報告書の作成を進めたこと。
- ②マスメディア等の様々な媒体を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 情報公開や情報発信の推進
- ・広報誌を年4回発行したほか、県政記者クラブ等を通じた報道各社への情報提供、公式SNSとの連携を強化した。
 - ・ホームページへのアクセス情報を分析するとともに、本学の活動内容を迅速に発信するため、学科ごとのページを充実させ、Facebook を活用した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			2	
合計	3			3	

(注) 大項目評価は、III及びIVの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がIII又はIVの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 貴学は、地域イベントへの参加などを通じて、県民との触れ合いは十分に行われており、多くの県民からもその活動は広く認知されている。情報発信についても相応にできている。
- 広報誌年4回発行、ホームページによる情報発信、報道・マスメディア等の媒体を駆使した積極的な情報提供、公式 SNS との連携強化、等の積極的な広報が展開されてきている。一方で近年は国公立大学を中心に教員による自己点検・評価を適時情報発信することが重要な課題となっており、理事長（学長）主導のもと FD/SD 推進室が基軸となり、自己点検へ向けた適切な評価軸を用意する必要がある、そのための内部検討が急務であろう。そこからさらに大学活動の全体を俯瞰しうる情報発信と情報公開への展開が期待される。各分野へ進出している卒業生の活動・活躍も含め、県域を越え広がる事業への貢献や参加も優れており、こうした成果の情報発信と情報公開、情報共有、情報精査には教職員全員での取り組みが求められる。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

(2) 判断理由

- ①平成 27 年度に開始したキャンパス整備事業について、学修環境と安全の確保に最大限配慮しながら取り組み、安全かつ着実に年度内の工事を完了したこと。
- ②新型コロナウイルス感染症対策について、3 月の卒業演奏会及び卒業式の会場変更など感染防止策を講じながら混乱なく実施するとともに、学生の海外からの帰国、中国から留学生の帰国など、関係者間で情報共有を行いながら迅速かつ的確な対応を行ったこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○施設・設備の整備と活用

- ・キャンパス整備工事は 5 年目を迎えたが、事業関係者間で緊密に連携を図りながら、安全かつ着実に年度内の工事を完了した。また、授業への影響を最小限に抑えながら、美術科、音楽科、事務局の学内での引越を円滑に行った。

○大学の安全管理

- ・12 月に発生した工事現場事務所火災において、危機管理本部を円滑に機能させ、学生と職員の安全管理に努め負傷者を出すことなく対応することができた。
- ・2 月以降の新型コロナウイルス感染症対策については、学生の海外からの帰国、中国からの留学生の帰国など、関係者間で情報共有を行い円滑な対応を行った。また、3 月の卒業演奏会及び卒業式の会場変更など感染防止策を講じながら的確に対応した。加えて、「防災・業務継続計画(BCP)」に基づく学内業務を混乱なく実施した。

○情報セキュリティの確保

- ・新教務学生システムをはじめ学内の情報システムが適切に管理・運用されていることを確認した。また、職員に対する情報セキュリティ研修を開催した。

○人権尊重の推進

- ・全教職員を対象とした人権研修会を 2 回開催し特にハラスメントについての理解を深めるとともに、学外で開催された研修会等へ出席し情報共有、意見交換を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備と活用	2			2	
安全管理	1				1
情報セキュリティ	1			1	
人権尊重の推進	2			2	
合計	6			5	1

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○キャンパス整備に伴う工事の計画的進捗の一方、安全確保を最優先にお願いしたい。

○新型コロナウイルス対策に早期から取り組み、迅速に対応したことは評価できる。

○平成 27 年度から始められたキャンパス整備事業が 5 年間を経て無事完了、美術科、音楽科、事務局が円滑に引越しされたことから、教育・研究面からも今後の施設設備の活用が期待される。新たな教務学生システムや情報システムが適切に管理・運用されだしたこと、一方、令和元年 12 月に工事現場事務所火災が生じた際は学内危機管理本部をスムーズに稼働させ、学生および教職員に負傷者がなく安全管理が適切に行われたこと、から大学全体の事故・災害時における危機管理や防災を含めたリスクマネジメントが適切に行われていることがわかる。併せて学生生活上の安全管理、健康管理はもとよりハラスメント防止等に関しても適切な点検・評価・見直しを実施されており高く評価しうる。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

- ① 「アートマネジメントプログラム」の実施等、芸術系学科と人文系学科からなる大学の特色を活かした、質の高い教育を提供していること。
- ② 就職率98.0%、進学率97.9%と、いずれも高い水準を維持したこと。
- ③ 年度計画は順調に実施していると認められるものの、「特筆すべき進行状況」と評価するには、他の公立大学を圧倒するような、もう一段の取組が期待されること。
具体的には、アートの力を活かした地域貢献や産学官連携の取組等、県立の芸術系大学ならではの地方創生に資する取組を一層強化していくことが期待されること。

<委員会からのコメント>

- 教育・研究分野を中心に、総じて、よくやっている。引き続き、幅広い教養・優れた技能を有する人間性豊かな人材の育成に努めるとともに、芸術の創造、文化の進展に尽力していただきたい。大学の立地も恵まれており、その立地も活用して、音楽をはじめとした芸術文化を多くの県民に身近なものと感じてもらおうとともに、感動を与え続けていただきたい。県内で開催される数多くのイベントに参加することで、多くの県民と触れ合い、地域社会の発展に寄与していただきたい。
- 昨年度、美術科の先生と商品の高品質のパッケージ、デザインに取り組ませていただいた。素晴らしい出来栄で非常に満足している。このように、外部と交流することにより大学運営がより活性化することを希望する。
- 大学の安心、安全のため、新型コロナウイルス、自然災害への危機管理の強化、働き方改革における職員の勤務時間管理の強化を期待する。
- 年度計画を順調に実施していると高く評価できる。個別には「I大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関しては、とりわけ全学横断型の「アートマネジメントプログラム」がもたらした効果発現をわかりやすく検証する必要が求められる。
「IV自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」に関しては、理事長（学長）主導のもとFD/SD推進室が基軸となり、教員による自己点検・評価へ向けて積極的な活動を創出するための内部検討が急務であろう。
貴学のビジョンやミッションに基づき、デザインやアート、音楽を通じたユニークな地域社会への貢献に取り組み、堅実な努力により展開していることは高く評価しうる。

さらに新装なった貴学のキャンパス整備がもたらす大学コーポレートアイデンティティ（イメージ）の刷新化のみならず、新たな施設の省エネ効果や新設の音楽ホールの貸し出し利用や大学施設全体資産の貸し出し・有効活用化、マネジメントなど、経済上の効果が財務上からも期待される。

また旧来より強みとして展開されてきた公開授業やオープンカレッジ公開講座を通じた地域貢献も重要である。講習料は重要な自己収入として算入される一方、経済的に困窮する学生が増えており授業料に対する個別の相談、指導等を適時加味する努力も必要であろう。学生や公開講座受講生に対する社会的包摂や合理的配慮を発揮されることで地域社会全体から支えられる公共性を意識した大学経営を意図されたい。同時に、積極的な外部資金獲得への挑戦や採択等へ向けての教職員が協力し合った取り組みは独自の成果をあげるものと高く評価しうる。

現在、全国的な国公立大学の3P（ポリシー）（アドミッション、カリキュラム、ディプロマポリシー）刷新が急務とされる中、入試に関する適切な受験生とのマッチングを導くアドミッションポリシー、誠実かつ効果的な教育を保証するカリキュラムポリシーならびにカリキュラムマップ、貴学ならではの就職や進学を保証するディプロマポリシーの見直しが求められており、適切な内部検討が求められるだろう。

さらにこれまで以上に、大学活動の全体を俯瞰しうる情報発信と情報公開への展開が期待される。各分野へ進出している卒業生の活動・活躍も含め、県域を越え広がる事業への貢献や参加も優れており、こうした成果の情報発信と情報公開、情報共有、情報精査には教職員全員での取り組みが求められる。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり